

立岩一郎と安積開拓

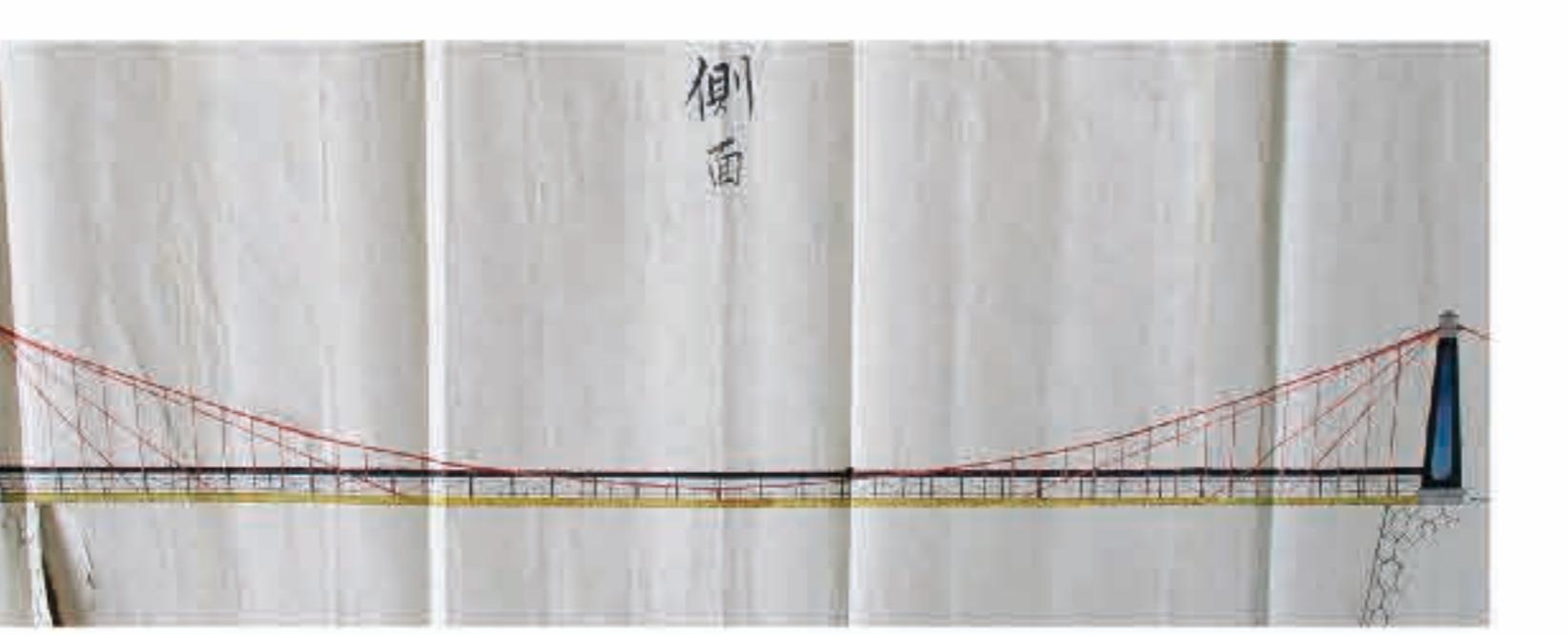
立岩一郎と福島県

立岩一郎は、天保10年(1839)に米沢藩士の子として米沢城下に誕生した。幕末、立岩は情報探索の命を受け、激変する情勢について情報収集を行った。戊辰戦争が起こると、同じ米沢藩士である中條政恒や立岩も藩のために戦った。

立岩は、明治5年(1872)11月5日に福島県十一等出仕、聴訟分課に採用された。先に福島県に任用された中條が、信頼する立岩を置賜県より呼び寄せたものとされる。

福島県は、明治7年(1874)1月20日に県内の行政区画を15区に分けた。立岩は、第3区(信夫郡飯坂村・現在の福島市飯坂町)の区長となり、新道開拓を県へ進言し、中野新道の開拓を行った。

また、摺上川に吊橋(十綱橋)の再架を行った。この橋は、明治5年に県令安場保和が温泉湯治に訪れたことがきっかけで架けられた。湯治中の安場が、治療に呼んだ按摩の伊達一が、摺上川へ橋を架けるために貯金をしていると知り、架橋が実現した。その後、明治7年に橋が突如崩落し、施工の問題があったとして、第3区長であった立岩が再架工費の全額を県・郡が出資するように奔走した。安場県令の奨めで、東京へ出張し、吹上御苑の吊橋を見学している。



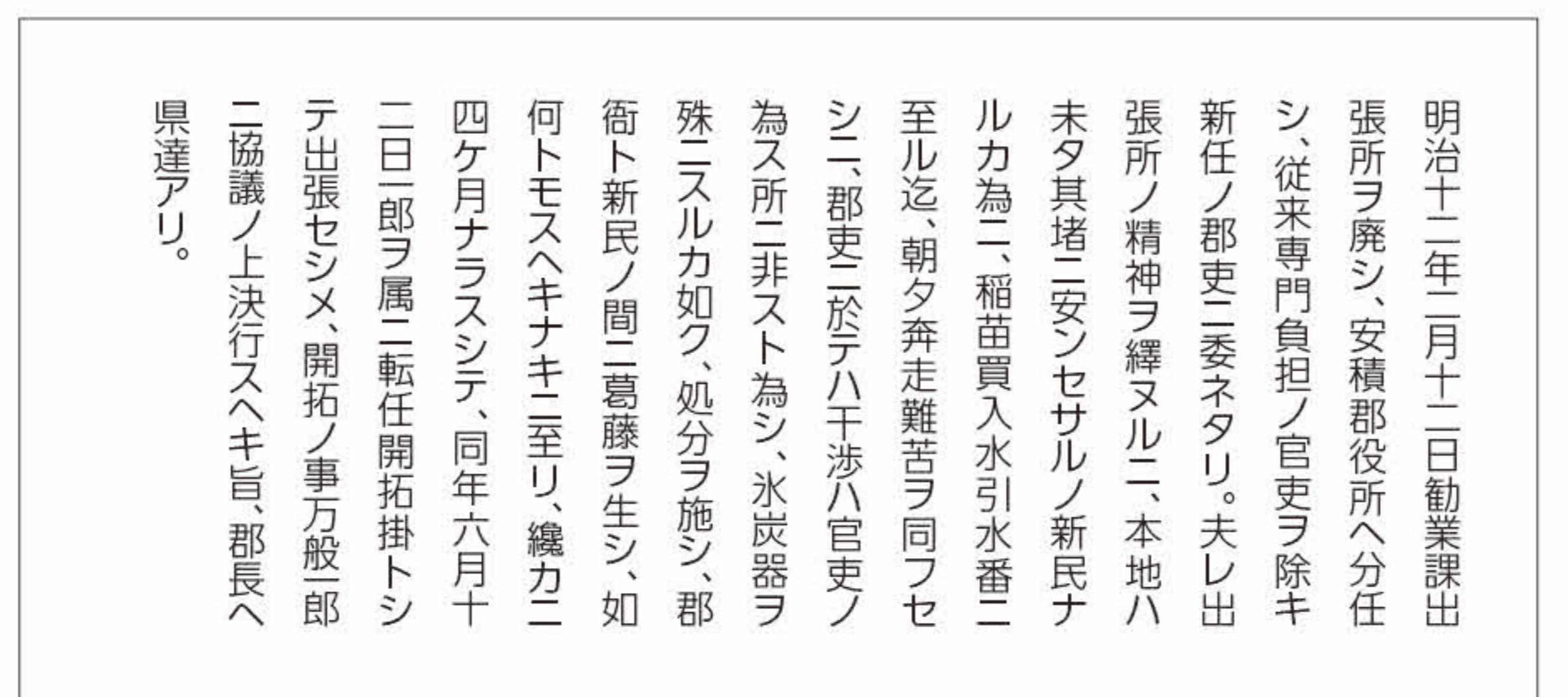
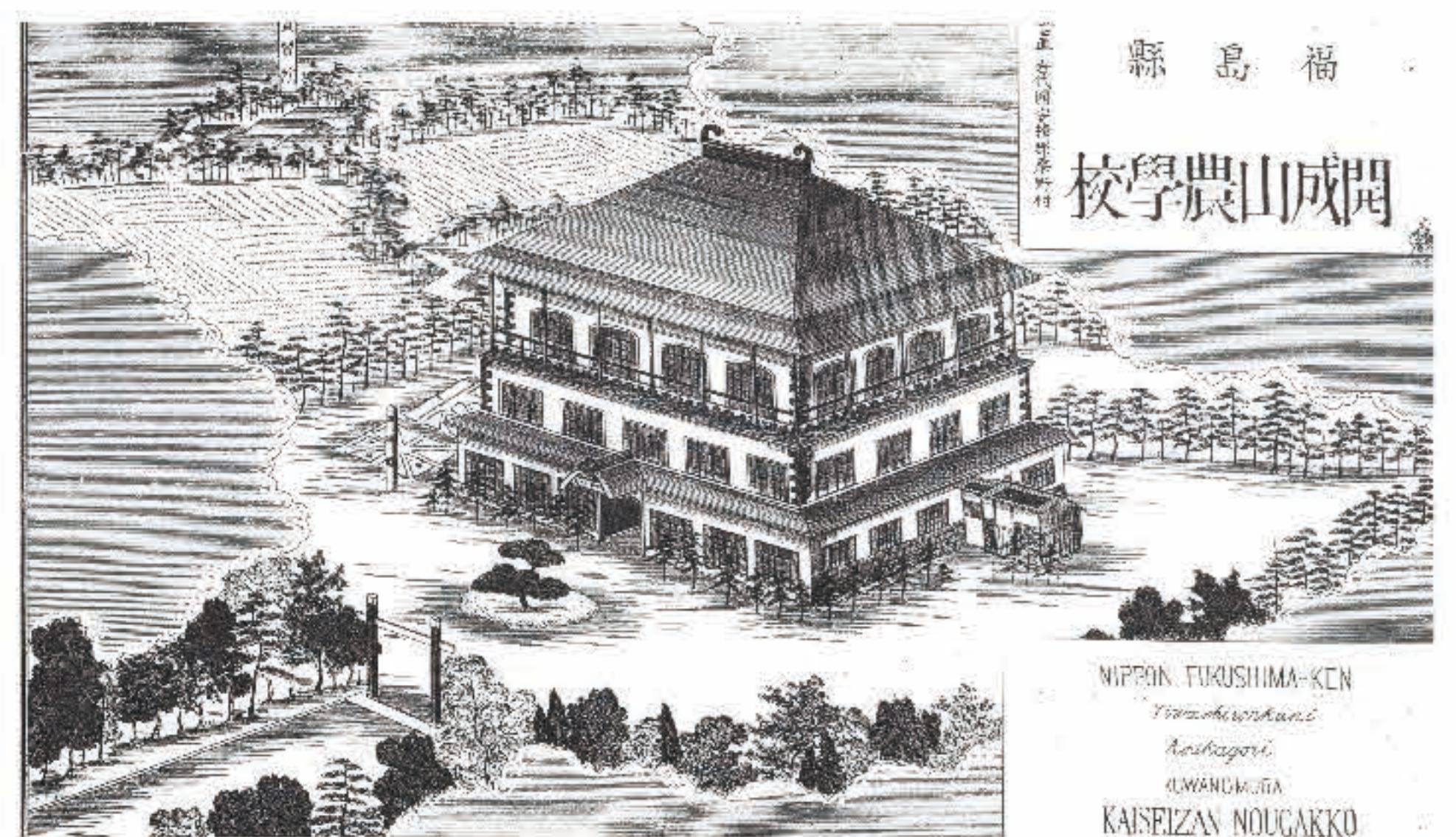
摺上川再架之図 (部分)
立岩家文書 郡山市歴史資料館蔵

開拓科出張所長

明治12年(1879)6月12日に立岩は開拓掛を命じられ、安積郡に派遣された。同年11月に開成館に勸業課開拓科出張所が設置され、立岩は出張所長となった。

立岩が開拓掛となつた頃には、開墾地では様々な困難を抱えていた。開成社の小作人問題、久留米開墾社の分離問題。加えて国営安積疏水開拓事業中、県が担当する第2~7の分水路に関する業務に取り組まなければならなかつた。

さらに、県は郡山に農学校を設立すること決めたことから、立岩はその準備を行つた。農学校は、明治13年(1880)6月に開校し、立岩は開拓科出張所長兼務で、農学校長に任命された。農学校の校舎は、郡山学校(現在の金透小学校)が使用された。



分草実録
「分草実録」(立岩家文書)より抜粋。句読点を加えた。

東北開墾社と立岩一郎

明治14年(1881)に明治天皇の東北・北海道巡幸が行われた。郡山は、往復路共に、行幸先となった。同年10月5日には、開成館が昼食会場として使用された。その後、大蔵壇原の久留米開墾社開墾場で野点が行われた。その際、久留米開墾社の分離騒動について知った明治天皇より、和親合一の声がかけられている。

明治天皇巡幸の最中に同年8月2日付けの辞令が届き、福島県大書記官であった中條が、急遽太政官少書記官へ転任となった。中條は、猪苗代湖の水が安積の地へ届くのを見る前に、福島を去ることになった。

中條の転任をはじめとして、福島県では県官の大量辞任が起こっている。同時期に明治政府において明治14年の政変が起つており、その地方版とも言えるものであった。この時、立岩も県官を辞任している。

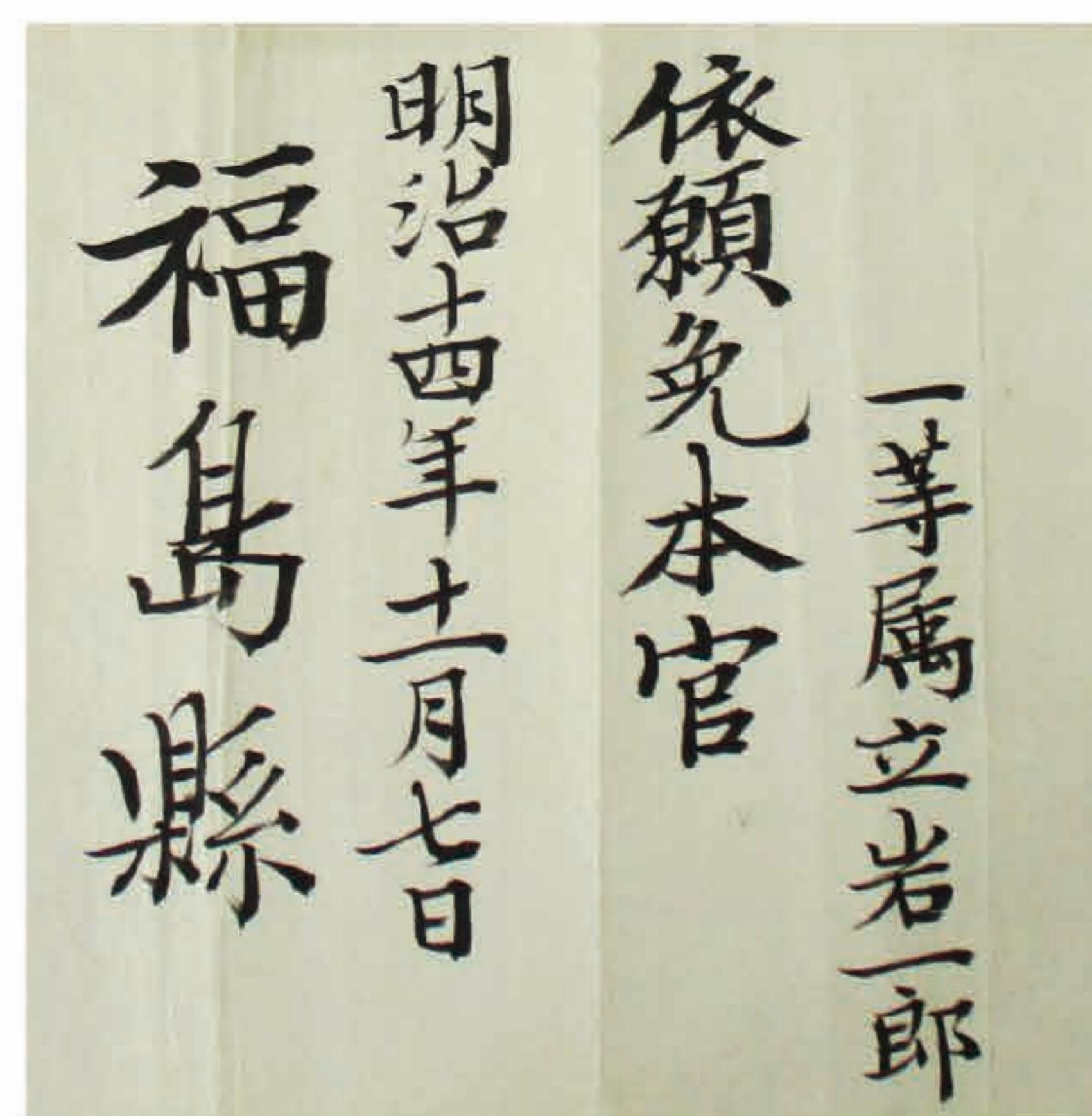
県官辞任後の立岩が中心となり、明治14年11月に移住士族全体を対象とした「東北開墾社」を設立した。財政悪化など開墾当初とは事情が変化し、入植者は苦しい状況におかれていった。そこで、移住士族の救済をするために、耕牧一体の農業を目指したもので、各開墾社や村の指導者が名を連ねた。資金は5万円として、うち4万円を借入金、残り1万円は株券を発行して募集した。

立岩は品川農商務少輔へ陳情書を提出するなど、必要性を訴えたが、県へ提出した資金拝借願が却下され、東北開墾社は破綻した。借入金は負債として社の幹部が負担することになった。立岩が東北開墾社の負債を清算したのは、明治25年(1892)であり、同年東北開墾社は解散した。

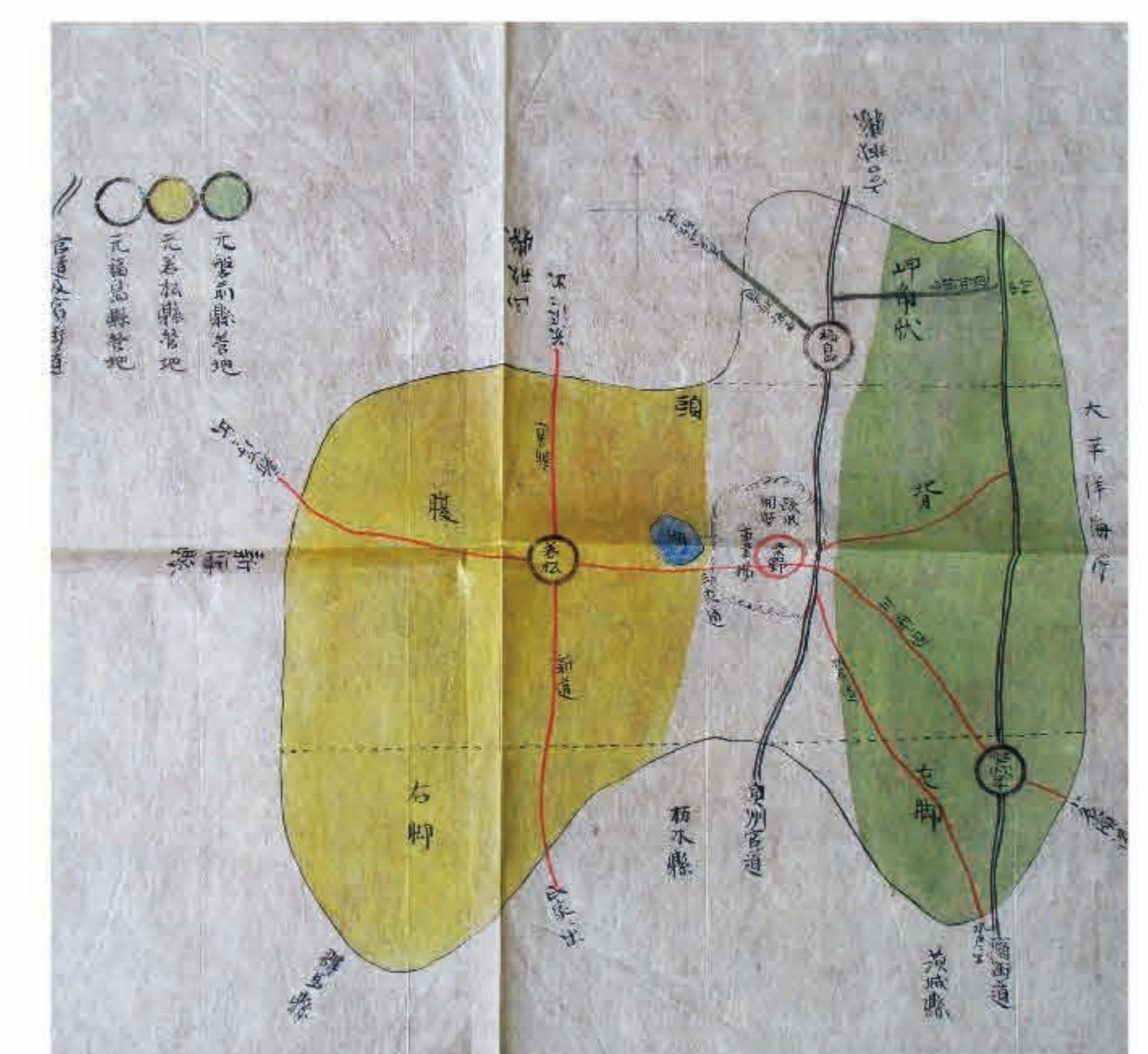
※明治14年の政変…北海道官有物払下事件に端を発し、大隈重信が排除、自由主義官僚が一掃された政治事件。



開墾率先碑
郡山市開成館49号線脇に建立された久留米開墾率先百戸の碑。
久留米開拓40周年を記念し、大正7年(1918)7月30日に建立された。



福島県辞令(依頼免本官)
立岩家文書 郡山市歴史資料館蔵



移庁建言草稿附地図 (桑野村)
立岩家文書 郡山市歴史資料館蔵

各開墾社ノ中央ニ、一般救濟ノ目的トシテ起立タル
東北開墾社ハ、立岩氏社長ニ至ラス。此ノ開墾社ハ、
甚シク、最早維持ス可ラナルノ慘況ニ陥リタレバ、中條君八是非ニ一般困
難ノ救済方策ヲ立テント種々苦心尽力ニ及ハレタレ
ニスガル証モ、此ニテノ特典ヲ請
トモ、此時ハ已ニ職權ナク、又數回ノ特典ヲ請
トモ、皆社員トナリ賛
シ、目的ヲ全フセシメハ、
全般ヲ益スル不少ヲ以
テ、自家資力ノアラシ限
リアル微力ヲ以テ、限
リナキノ支出ハ行ハレ
ス。苦心煩悶ノ末、政府
社会ハアテニナラズ、此
上ハ宗教ノ德義ノ訴ヒ、
トナリ、各開墾社ハ不待
面々、皆社員トナリ賛
トナリ、受シタル末ナレハ、政府
ニスガル証モ、至ラス。此
策殆ド尽キ果タリ、東
北開墾社ハ立岩氏社長
受シタル末ナレハ、政府
ニスガル証モ、至ラス。此
トモ、此時ハ已ニ職權ナ
シトシ。

安積事業誌
「安積事業誌」より抜粋。句読点を加えた。